

# 1

Rd.

APR 2015

平成27年5月1日発行  
第6巻86号

# RACING PRESS

apan

## SUPER GT ROUND 1 OKAYAMA



Super GT  
Series 2015

GT

Round 1  
OKAYAMA

4/4-5



Nakamura

Text

鳥村元子

Editor

吉川絹恵

Photo

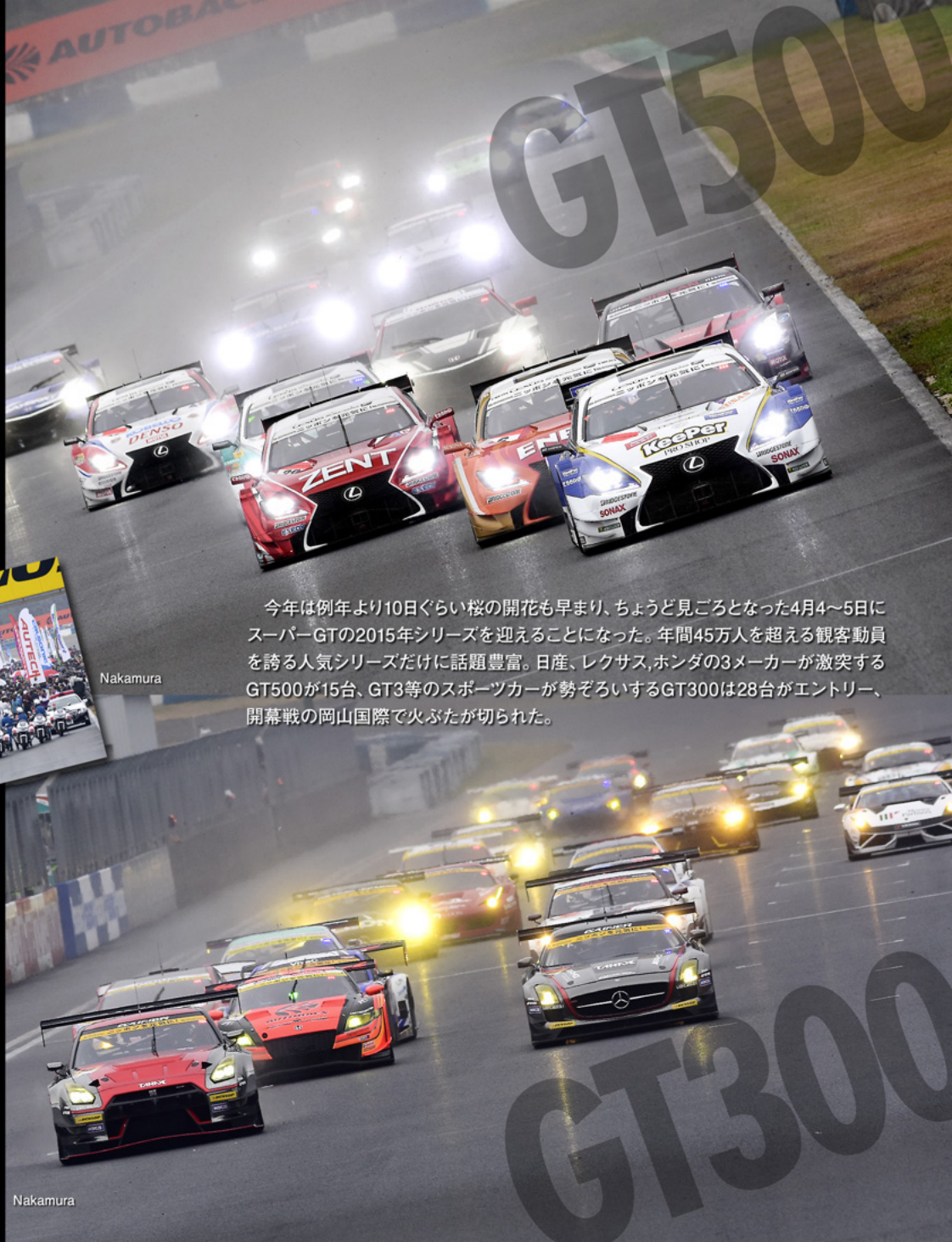
鉄谷康博

中村佳史

小澤克仁

Cover Photo

鉄谷康博



Nakamura

今年は例年より10日くらい桜の開花も早まり、ちょうど見ごろとなった4月4～5日にスーパーGTの2015年シリーズを迎えることになった。年間45万人を超える観客動員を誇る人気シリーズだけに話題豊富。日産、レクサス、ホンダの3メーカーが激突するGT500が15台、GT3等のスポーツカーが勢ぞろいするGT300は28台がエントリー、開幕戦の岡山国際で火ぶたが切られた。

# 2015 スーパーGT開幕! モンスターマシンが激闘!

スーパーGTは昨年大幅に刷新され、ドイツ・ツーリングカー選手権と車両規則を統一して2年目を迎えますが、ますます進化を遂げおりGT300クラスにおいても本年からマザーシャーシを投入トヨタ86が3台デビュー。第1ラウンドの決戦は激しい戦いを繰り広げる結果となった。





GT500



GT300

# Keeper TOM'S RC Fが岡山2連勝!

待ちに待ったSUPER GTの2015年シーズンが開幕! 4月4-5日、舞台となった岡山国際サーキットは薄曇り&雨というあいにくの天候となったが、その中でさまざまなドラマが生まれ、No.37 Keeper TOM'S RC F(アンドレア・カルダレリ/平川 亮組)がポールトゥーウィンを飾る劇的な結末となった。

予選が行われた土曜日は終日曇り空。朝の練習時にはウェットコンディションだった路面も追って回復。ノックアウト方式の予選では全車がスリックタイヤを投入しての攻撃が繰り広げられた。まず口火を切ったのは、No.38 ZENT CERUMO RC Fの石浦宏明。コースレコードを更新する快走を見せ、さらに同じレクサス勢がこれに続き、トップ4を独占する。Q2への進出が許されるのは全15台中8台。レクサス勢は計5台がQ1を突破したが、対して日産勢は2台、そしてホンダにおいてはわずか1台に留まることになり、さっそく今シーズンの勢力図が明らかとなる形となった。Q2でもその流れは変わらず。12分のアタックの中、残り3分の時点でトップに躍り出たのは、今シーズンからフル参戦を果たす37号車の平川。コースレコード更新となる1分19秒008のタイムでライバルを制し、加えて自身初のポールポジションを手にした。

土曜の夜遅くから雨になり、決勝日の朝はまたもウェットコンディション。フリー走行では各車レインタイヤを装着し、決勝に向けての最終的なセットアップを進めた。だが、午後2時30分からの決勝を前にして、すっかり雨は上がった状態に。とはいえ、路面はまだ濡れていたことから1台をのぞきレインタイヤでスタートを切った。37号車はカルダレリが落ち着いたレース運びでトップの座を堅持。だが、それぞれ異なる性質のレインタイヤを装着する中、次第にバトルが勃発する。

立ち替わり入れ替わりトップが変化する中、折り返しを過ぎてトップはNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GT(山本高貴/伊沢拓也組)。ハードのレインタイヤが奏功した形だったが、終盤に入ると状況が激変。再び雨となり、足下が危うくなる。その間隙を縫ったのが37号車の平川。ミディアムのレインタイヤで雨の中を激走し、100号車の伊沢を見事に逆転。残り10数周をそつなく走り切り、トップでゴール! 37号車の2連覇を自身のGT500初優勝で飾っている。一方、2位の100号車に続いたのは、予選3位からスタートしたNo.38 ZENT CERUMO RC F(立川祐路/石浦宏明組)だった。



## GT500



予選でクラスポールを手にしたのは、No.10 GAINER TANAX GT-R (アンドレ・クート/千代勝正組)。だが、すぐさま予選3位からスタートしたNo.55 ARTA CR-Z GTの高木真一がポジションアップ。さらに予選5位のNo.31 TOYOTA PRIUS apr GTが瞬間に上位へ食い込み、ドライブする嵯峨宏紀が早くも4周目にクラストップを奪った。一方、僚友の10号車とフロントローを分け合ったNo.11 GAINER TANAX SLS(平中克幸/ビヨンビルドハイム組)。初戦優勝という強い意気込みから、決勝はスリックタイヤを選択する賭けに出る。だが、裏目に出て大きくポジションを下げてしまった。

トップに立った31号車はつねに安定したタイムをキープ。タイヤマネジメントも申し分なく、後続車とのマージンを大量に築き上げる。嵯峨からバトンを委ねられた中山雄一は、今年からGT300にフル参戦を果たしたルーキー。だがすでにトップフォーミュラでの激戦を経験する若手ドライバーは、先輩同様、冷静なレース運びでトップの座を死守し、周回を重ねていく。最終的には40秒を越えるリードを活かして後続の追い上げをシャットアウト。申し分のない形で優勝を飾った。2位には55号車。また3位には、予選10位のNo.21 Audi R8 LMS ultra (リチャード・ライアン/藤井誠暢組)が続いている。



今年からGT300クラスにマザーシャーンが登場!  
トヨタ86が3台エントリー

2nd



3rd



ACCIDENT



POLE POSITION

昨年のチャンピオンチームのゲイナーが日産GT-R/GT3で見事にポールポジションを獲得した。



GT300決勝結果		
1位	No.31	TOYOTA PRIUS apr GT 嵯峨 宏紀 / 中山 雄一 77周
2位	No.55	ARTA CR-Z GT 高木 真一 / 小林 崇志 77周
3位	No.21	Audi R8 LMS ultra リチャード・ライアン / 藤井 誠暢 76周
4位	No.86	Racing Tech Audi R8 クリスチャン・マメロウ / 細川 慎弥 76周
5位	No.0	グッドスマイル 初音ミク SLS 谷口 信輝 / 片岡 龍也 76周
6位	No.25	VivaC 86 MC 土屋 武士 / 松井 孝允 76周
7位	No.10	GAINER TANAX GT-R アンドレ・クート / 千代 勝正 75周
8位	No.3	B-MAX NDDP GT-R 星野 一樹 / 高星 明誠 75周
9位	No.51	JMS LMcorsa Z4 新田 守男 / 脇阪 薫一 75周
10位	No.60	SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 飯田 章 / 吉本 大樹 75周
11位	No.77	KSF Direction Ferrari 458 横溝 直輝 / 峰尾 恭輔 75周
12位	No.11	GAINER TANAX SLS 平中 克幸 / ビヨンビルドハイム 74周
13位	No.30	NetMove GT-R 小泉 洋史 / 岩崎 祐貴 74周
14位	No.33	Excellence Porsche インベラトリー / 山下 健太 74周
15位	No.48	DIJON Racing GT-R 高森 博士 / 田中 勝輝 74周
16位	No.2	シンティアム・アップル・ロータス 高橋 一穂 / 加藤 寛規 74周
17位	No.61	SUBARU BRZ R&D SPORT 井口 卓人 / 山内 英輝 73周
18位	No.50	SKT EXE SLS 加納 政樹 / 安岡 秀徒 73周
19位	No.18	UPGARAGE BANDO 86 中山 友貴 / 井出 有治 71周
20位	No.87	クリスタルクロコ ランボルギーニ GT3 青木 孝行 / 山西 康司 70周
21位	No.111	Rn-SPORTS GAINER SLS 植田 正幸 / 鶴田 和弥 70周
22位	No.65	LEON SLS 黒澤 治樹 / 蒲生 尚弥 70周
23位	No.9	PACIFIC マクラーレン with μ's 白坂 卓也 / 東 徹次郎 68周
24位	No.360	RUNUP Group&DOES GT-R 吉田 広樹 / 田中 篤 63周
	No.88	マネバ ランボルギーニ GT3 織戸 学 / 平峰 一貴 38周
	No.5	マッハ車検 with いらこん 86c-west 玉中 哲二 / 密山 祥吾 1周
	No.7	Stodie BMW Z4 ヨルグ・ミュラー / 荒 聖治 0周